

#### 第4回外国語ワーキンググループについて

2015年12月21日に中央教育審議会教育課程部会の外国語ワーキンググループが開催された。

15:00から17:00まで文部科学省15階特別会議室で行われた。  
一般傍聴者は前回と同様、30~40名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 小・中・高等学校を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力について
2. 外国語ワーキンググループにおける検討事項に対する主な意見について

当初は今回で一度まとめをするはずであったが、議論の時間が足りなかったため次回までに延期となり、そこで意見をまとめ、小学校の授業時間について、小学校部会へ提出されることになった。

まずは議題1について、事務局より説明があった。

これまでの議論の中で、情意面を盛り込むべきなどの意見を踏まえ、文科省が作成した資質・能力に関する資料のたたき台が示された。

「相手意識を持って」「他者を尊重し」などの文言が盛り込まれた内容となった。さらに、特に重視すべき思考力・表現力・判断力について「領域」という用語を用いて、4技能に加えそれを統合的に活用することの例が示された。

これに対し、委員より意見が述べられた。主なものは以下の通りである。

「知識・技能」欄その他に「積極的に」という文言が多用されており、これについて評価しにくい、入れるべきでないなどの意見が出された。コミュニケーションについては「積極的に」ではなく、「適切に」とすべきという意見もあった。

小学校高学年で教科化されるに当たり、文字で読み書きする技能が追加されたが、中学年の英語活動の「聞く・話す」と対比して表現してあるため、読み書きの指導に重点を置くような誤解を招く恐れがあるとの指摘もあった。

「コミュニケーション」や「領域」という用語や「相手意識」と「他者を尊重する」との違いなど、使用する用語についても誤解の生じないよう説明が必要な部分があるとの意見もあった。

さらに、評価についても「思考力・表現力・判断力」や「学びに向かう力、人間性」という観点では、今までの評価の枠組みでは難しいとの意見があった。

しかし、これは英語科にとどまらず、全体に関わる問題であるので全体としての議論が必要であるとのことであった。

次に、16:00 頃より議題 2 について事務局より説明があった。

外国語ワーキンググループにおける検討事項に対する主な意見として、これまでの議論を集約し、まとめた資料が示された。

その内容は、育成すべき資質・能力、目標の設定方法、評価の仕方、国語との連携、小学校での内容と短時間学習の活用、小中の連携、教材と教員養成・研修と多岐に渡る。

それと同時に小学校での年間指導計画の具体例も示された。

これに対して、委員より意見が述べられた。主なものは以下の通りである。

短時間学習について、年間 70 時間のうち 35 時間分をモジュールで実施することは、できない学校もあり、現場では不安を感じている。単なるドリル活動になってしまわないよう効果的な利用方法を提示しながら、平等性を保てる（定着度に差が出ない）よう活用方法を慎重に検討すべきである。

学習目標である CAN-DO リストは、学校ごとに現場にあったものを作成するのが理想であるが、若手教員が多い都市部や小規模校などでは作成の負担が大きすぎるため地域ごとの作成もうまく利用すべきであり、小中高をつなぐ大枠は国がしっかりと示すべきである。ALT や ICT は現状で活用しきれていないが、同じように CAN-DO リストも作っただけで機能しないということのないよう、現場が使いやすいようなもの、役立つものにしなければならない。

評価は小中高を通したポートフォリオのような形式で一貫して示せるとよい。

教員養成・研修についても重要で、研修意欲は高いのに忙しくて受けられない教員たちの環境整備が不可欠である。

次回は 1 月 12 日（火）9:00～11:00、文部科学省 3F1 特別会議室にて開催予定である。

本日の追加意見を踏まえ、議論を一度まとめることとなる。